

日本の伝統芸能に親しもう

令和2年 12月10日(木) 6校時 HR 教室 2年1組21名(男子12名 女子9名)

1 単元について

- 本単元は中学校学習指導要領、第二学年及び第三学年(2)B鑑賞の内容に基づき設定した。中学校学習指導要領には以下のように記されている。

- (1)ア (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割
 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
 イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
 (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
 (ウ) 我が国や強度の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性

(1) 単元観

我が国の伝統音楽の鑑賞学習として、第1学年では「箏曲、尺八曲」を学習した。第2学年では「歌舞伎と文楽」第3学年では「雅楽、能」を学習することとなっている。本学年では、1学年で我が国特有の楽器の音や演奏技法などを通して学んだことをさらに深め、歌舞伎の長唄や能楽の歌い方などから様々な特徴をもつ音楽が存在することに気づかせ、その特徴を通して日本音楽の持つ多様性や、人々の暮らしとともに音楽文化があることを感じ取らせることができる単元である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、日々の授業を落ち着いて受けることができおり、そのことが音楽の表現活動を円滑に進める元となっている。事前アンケートによると、今回扱う日本の伝統芸能の歌舞伎は、実際にテレビなどで観たことのある生徒はほとんどなく、自ら興味を持って聴こうとすることもなく、歌舞伎は生徒にとって親しみのないものと考えられる。また、音楽を聴いて感じたことを言葉や文章にして表現することについては、手本となる語句があれば何とか表現できると答えられた。

(3) 指導観

指導に当たっては、今もなお発展している歌舞伎の音楽「長唄」を通して、その特徴を、物語のあらすじや、配役と音楽の関わりなどを通して知覚し【思考力・判断力】、味わい、音楽を形づくっている要素と自分なりの言葉で良さを伝えることができるようにする力【表現力】を身につけさせたい。また、グループ活動で仲間とともに練習することにより、声の音色や節回しの特徴を感じ取ったことをまとめ、表現する力を育成したいと考える。

(4) 単元の目標

- 長唄や歌舞伎に興味・関心をもち、活動に意欲的に取り組むことができる。【知識・技能】
 ○長唄の発声や唄い方の特徴を感じ取り、表現を工夫している。【思考・判断・表現】
 ○長唄の発声や唄い方の特徴を生かして唄うことができる。【思考・判断・表現】
 ○歌舞伎における長唄の役割と効果を理解して聴き、その良さを味わって聴くことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

2 単元の評価規準

観点	【ア】音楽への関心・意欲・態度	【イ】音楽表現の創意工夫	【ウ】音楽表現の技能
評価規準	長唄に興味・関心をもちながら聴き、唄う学習に主体的に取り組んでいる。	長唄を唄って、音色や間などに対する感覚を知覚しながら、長唄らしさを味わい、音楽表現を工夫している。	模範演奏に近づけて、音色を意識しながら声に出して表現している。

3 指導計画（3時間）

次	学 習 活 動	評価規準【観点】（評価方法）
一	<ul style="list-style-type: none"> 総合芸術としての歌舞伎の特徴（音楽・舞踊・演技）を捉える。 「勧進帳」の登場人物や物語のあらすじを捉える。 歌舞伎と長唄の関連性がわかり、基礎知識を捉える。 	【ア】【イ】 ・歌舞伎の特徴と勧進帳のあらすじを理解している。（ワークシート・観察）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【単元を貫く課題】 日本の伝統芸能に親しもう </div>		
二	<ul style="list-style-type: none"> 長唄「旅の衣は鈴懸の～海津の浦に着きにけり」の部分を鑑賞し、節回しの特徴を感じ取る。 「産字」や「唄い尻」に注意しながら節回しの特徴を感じ取り、言葉や記号で書き表す。 <p style="text-align: right;">（本時）</p>	【ア】 長唄に興味・関心をもちながら聴き、唄う学習に主体的に取り組んでいる。 【イ】 ・聴き取った歌詞を旋律のまとまりごとに書き表すことができる。 ・自分なりの言葉を使ってまとめることができる。（ワークシート・発表・観察）
三	<ul style="list-style-type: none"> 場面1～場面3を聴き、長唄の特徴を感じ取る。 作成した表を見ながら班内で「これやこの」の部分を実際に唄い発表する。 	【ウ】 ・作成した表を見ながら班内で唄うことができる。 ・人の演奏を聴き、良さを感じ取ろうとしている。（ワークシート・発表・観察）

4 本時の展開（2/3時間）

(1) 本時の目標

長唄の演奏を聴き取り、その特徴を書き表すことができる。

(2) 観点別評価規準

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)	努力を要する生徒への手だて (C)
・声や楽器の音色・言葉の抑揚・旋律・速度・リズムなどの特徴を感じ取り、音楽を形づくっている要素と自分なりの言葉を使ってまとめることができる。 ・聴き取った歌詞を旋律のまとまりごとに書き表すことができる。	・声や楽器の音色・言葉の抑揚・旋律・速度・リズムなどの特徴を感じ取り、音楽を形づくっている要素と自分なりの言葉を記述することができる。 ・聴き取った歌詞を書き表すことができる。	・音楽を形づくっている要素と、それをつなぐ言葉を書くことができる。 ・歌詞を書き表すことができる。

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) 予想される生徒の反応 (・)	評価規準 (評価方法) 配慮を要する生徒への支援 (◆)
1. 既習事項の復習 ・ 勸進帳の登場人物 ・ 楽器, ストーリー 2. 本時の学習課題を確認	○教科書, ワークシートを見て発表しやすい雰囲気を作る。 ・ 義経, 弁慶, 富樫, …	
めあて：音楽的用語を使って説明できる。		
3. 「旅の衣は～」と 「これやこの～」の歌詞を 音読する。 (ペアまたは班活動) 4. 歌詞の鑑賞 (CD) 曲を聴きながら歌詞を書き取る。	○個人で読む。 ○声を揃えて音読する。 ○見て書くのではなく、聴いて書く。	【ア】 長唄に興味・関心をもちながら聴き、唄う学習に主体的に取り組んでいる。 ◆読みにくい字にルビをふる。 ◆教科書を見ながら書く。
瀬戸田シンキングタイム		
5. 「音楽を形作る要素」を表現する言葉を考える。	○個人→班活動 ○いくつかの例を挙げ、考えさせる。 ○多様な言い表し方ができるようにさせる。 (例) 低い音が少しずつだんだん高くなっている 旋律のまとまりごとに唄い尻がある	◆短文でわかりやすい言葉で表現できるように支援する。 【イ】・聴き取った歌詞を旋律のまとまりごとに書き表すことができる。 ・自分なりの言葉を使ってまとめることができる。
6. ワークシートに記入する。 7. 音楽の鑑賞 (DVD) 長唄特有の発声や節回しの詳細を聴き取る。 8. 聴き取ったことを、音楽用語を用いて書く。(ペア活動) 9. 唄うための準備 歌詞をフレーズごとに改行して書く。 10. まとめ ・ 本時の振り返りをする。	○黒板に書いても良い。 ○気づいたことを書き取る。 ○CD と比較しながら特徴を書き取る。 ○他者から良い面を学ばせる。 ○図形楽譜にするための下書きとなるように意識させる。 ○文字の大きさに注意させる。 ○伸ばす音や音の高低を意識して記入させる。 ○自己決定させ、意欲の向上を図る。 ○具体的に書くように指示する (分かったことや、気づいたことを振り返らせる)	◆具体的に指示する。

